

目的 単糖類又は二糖類アルコールについての報告は数多くなつてゐるが、デキストリンアルコールについての報告は少い。しかしこのものは食品の品質劣化防止の意味で多くの食品に使用されてゐる。そこでデキストリンアルコールを摂取した場合に生体にどのような影響が現れるかを知る目的で実験を行った。

方法 ウィスター系 幼雄白ネズミに対し、5~30%デキストリンアルコールを混入した飼料を4週間投与した。その間の成長および絶食時ならびに飼料摂取直後における血糖を測定した。別に5日毎にデキストリンアルコールの飼料混入量を増加し、どの程度までの混入が可能であるかを、成長、下痢の有無を指標として判定し、みかけの吸収率、ビタミン排泄量を無混入飼料投与群と比較した。

結果 シロネズミの飼料中にデキストリンアルコール15%を混入してもシロネズミの成長を阻害しない。しかし30%混入すると成長がやや阻害される。飼料中の小麦粉をすべてデキストリンアルコールにかへても、順次増加の方法を行えばシロネズミはこの飼料に順応し成長する。飼料摂取直後の血糖値は、対照群に比べデキストリンアルコール混入飼料群が低い。しかし絶食時のそれは、デキストリンアルコール混入飼料群が高い。